

BUNKA FASHION COLLEGE

SUMIRE KAI

文化服装学院
すみれ会(同窓会) 会報誌



1001

2024
NO 64

NEWSLETTER OF SUMIRE-KAI

文化服装学院 すみれ会(同窓会) すみれ会報

CONTENTS

- 01 すみれ会会長あいさつ
- 02 すみれ会名誉会長インタビュー
- 04 すみれ会の活動
- 06 ファミリーでBUNKA生!
- 10 卒業生の活躍
- 14 文化服装学院の今
 - Shows, Events
 - Contests
- 18 インフォメーション
 - 会計報告/会員手続きについて/すみれ会会員特典/
 - 文化学園服飾博物館 展覧会のお知らせ/
 - 文化服装学院 教員採用情報/古本募金

すみれ会会長あいさつ

Message

文化服装学院の進化と卒業生のつながりが これからのファッションを形成する

すみれ会(同窓会)会員のみなさまにおきましては、創立100周年を超えた文化服装学院の新たな進化を求められていると思います。

100年前、日本の女性たちへ洋裁を学ぶ環境を整えることで始まった文化服装学院は、時代に先駆けるかたちで世界に日本のファッションを発信するコレクションビジネスをバック

アップしてきました。実用的な洋服の時代から、1950～60年代になると日本の女性たちもファッションを楽しむ時代に、そして1970年代を迎えると日本は独自のファッション文化を生み出し、その日本のクリエイションを持って世界にはばたき活躍するデザイナーを輩出してきました。

そして創立100周年を超えた今、世界のファッションビジネスが大きく変わり始めています。今までのように皆が同じトレンドを追いかけ、同じ洋服を着ることから、次第に個性を重んじ、多様な価値観を認め合う時代へと移り変わると同時に、洋服のつくり方やカルチャーも変わりつつあります。販売チャネル(販売経路)や流通そのものが消費者へダイレクトにつながるビジネスを生んだり、一個人がオリジナルでものをつ



佐藤 正樹 氏

すみれ会会長

佐藤繊維株式会社 代表取締役

くってブランド化させ、SNSを利用して同じような趣向や価値観を持ったコミュニティビジネスを形成するようになってきたのです。

もちろん今までのような世界のファッションのあり方も継続されるでしょう。トレンドをつくり出すことでダイナミックに動いていく世界のファッションシステムの中で、新しいビジネ

スを日本から生み出し発信するためのスキルを学べる環境を整えたり、人材を育てていくことも文化服装学院の次なる進化の方向性のひとつであろうと思います。また、ものづくりだけではなく、見せる力、プレゼン力を高めるため、より幅広い知識と教育が必要な時代になると考えています。

真の意味で多様性の時代になった今、一人のノウハウだけでできることには限界がありますが、幅広い業種やバックグラウンドの人たちとのつながりを持つことが重要になってくると思います。文化服装学院の卒業生がつながることで、今まで以上の新しいビジネス、また世界と戦える新しい流通構造をつくることのできる……。そのような横のつながりを持てるのが、すみれ会のよさではないかと思っております。

すみれ会名誉会長インタビュー

Interview

100年をかけて、日本のファッション教育の中心としての歴史と実績を積み上げてきた文化服装学院。昨年6月の創立100周年記念イベントは会員の皆さまの記憶にも新しいところでしょう。次の100年を目指して歩みだした文化服装学院のこれからについて、相原 幸子学院長にお話を伺いました。

——2024年度も約半年が過ぎました。ファッション教育の先頭に立つ文化服装学院が新たに取り組んでいることはありますか？

100周年の余韻に浸ってはいられませんね。文化服装学院は、すでに次に向けてスタートを切っています。

まずはファッションの裾野を広げ、さらなる人材育成を図るために2025年度4月入学者の入試制度改革を行いました。入学検討者に対して開催している学校説明会では、つけ衿やバッグづくりなどの各種ワークショップを同時開催し、「ファッションを学ぶ楽しさ」を感じてもらおう努力を教職員・在校生で行っています。

18歳人口の減少により大学全入時代といわれる現在、文化服装学院に限らず全国の専門学校は厳しさの増す時代となるでしょう。思うに文化服装学院は、「専門学校だからこそ100年続くことができた」のではないのでしょうか。専門学校だからこそできるきめ細やかで、実践的な学びをしっかりとやっていくことこそ、本学が目指す姿であると考えます。

これまでの基礎教育を大切にしつつも、自らに自信が持てる特徴的なスキルを身につけてほしいと思いますが、実は人間力をいかに養うかという側面もあります。クリエイションだけでできればいい、ビジネスだけわかればいいという時代はとうに過ぎました。両方を理解しておくことは、例えば産地や工場の方をはじめ、ジャーナリストやバイヤーなどファッションに携わる世界中の

方々とコミュニケーションを取るために必須として、自己研鑽を怠らず、人との接し方でも一流であってほしい。もちろん、文化服装学院の中でのクリエイション系・ビジネス系に在籍する学生同士でのブランド立ち上げを促進することも一案でしょう。

現在、具体的な話し合いを進めているのは、世界的なコンテストで賞を獲るための対策強化です。こうしたコンテストのグランプリを獲得することがさまざまな機会に恵まれることを最大のメリットとして、バックアップしていきたいからです。17ページでご紹介している佐藤百華さん（「ユークロニア」デザイナー、ファッション高度専門士科2017年卒業）は、新人デザイナーの登竜門であるファッションコンテスト「ITS」のグランプリを受賞されました。賞金に加え、2週間のレジデンスプログラムもあり、ほかの候補者たちとの交流、業界のメンターとのインタビューやセミナーなど、将来、クリエイターとして活躍するためのユニークなサポートを得られるのですが、こうしたコンテストにエントリーし、ファイナリストへと進出するには語学力も必要です。また揺るぎないコンセプトに沿った魅力的なポートフォリオをつくり上げる力、プレゼンテーションスキルも必要となります。

在校生たちには、こうした海外コンテストでも受賞を果たすだけの実力が備わっていると自負しています。しかし、自分には……という学生も散見され、指導の大切さを痛感しています。指導するためには教員も研鑽を積む必要がありますが、全学を挙げての支援体制を組み、実績を積み上げていきたいと考えています。

——すみれ会海外留学サポート奨学金制度の第1回奨学生に選ばれた大槻嘉己さんも、今年9月からイギリスでの留学生生活をスタートされたとのことですよ。

※詳しくは、5ページをご覧ください

専門学校だからこそできる教育を突き詰め、 世界で活躍できるクリエイターを輩出する地固めの年に

制度の運営を開始した2022年以降、最初の奨学生・大槻さんのことは選考時のことも鮮明に覚えています。ポートフォリオと志望理由書に込められた作品制作への熱意、将来の夢。選考委員の満場一致という、文句のつけようのない奨学生です。ゆくゆくは日本を拠点として、コスチュームデザイナーとして、またアートフラワーアーティストとしても活動を広げたいとのこと、大槻さんのご活躍を会員の皆さまも楽しみに待っててください。

——会員の皆さまにメッセージをお願いします。

すでに会期は終了してしまいましたが、グッチが日本とのつながりを今後もより強く育んでいくという観点から、日本の伝統工芸作家とコンテンポラリーアーティストがビンテージの「グッチ バンブー 1947」ハンドバッグを用いて作品をつくり上げるスペシャルなコラボレーション*1が行われました。世界基準からみても、日本には魅力的なつくり手、アーティストがいます。またつくられた作品のみならず、日本独自の素材にいたっては、最先端のものから伝統的なものまで、まだ知られていない逸品が全国の産地にあるように思います。文化服装学

院では、1年生の頃より産地見学を行い、現場体験を大切にしていますが、自ら手を動かして、刺繍などの技術を生かした服づくりを世界へ発信していく取り組みも大切になってくるでしょう。

また、会員の皆さまには、ファッションショーなどに遠藤記念館大ホールといった学内の施設を活用していただければと思います。キャンパス内で、日常的にファッションショーが行われるようになれば、在校生の好奇心や向上意欲は自然と高まるでしょう。卒業生と在校生の交流が活発になることで、文化服装学院がさらなる飛躍を遂げることと信じております。

*1 彫金家で人間国宝の桂盛仁氏、塗師の渡慶次愛氏などの伝統工芸作家、写真家の森山大道氏といったコンテンポラリーアーティスト計7名によってアップサイクルされた「グッチ バンブー 1947」と同バッグの歴史を紹介した展覧会「Bamboo 1947: Then and Now バンブーが出会う日本の工芸と現代アート」展(2024年8月2日～9月23日)



相原 幸子 先生

すみれ会名誉会長 文化服装学院学院長

学院長の 学生時代

文化服装学院で4年間学ばれた相原先生。

「いろいろな経験をさせてもらった」とおっしゃる学生時代の写真を見せていただきました！



服装産業科時代に制作したフォーマルドレス。当時としても高価な1m15000円のシルク製! (右)



研修旅行で訪れた岡山県の倉敷アイビースクエアで。近代化産業遺産に認定されている、明治時代に建てられた紡績工場跡地にある赤レンガのホテルに宿泊した(中央右)



教育専攻科在籍時の課題「細ブリーツ」の発表会。コテと小林アイロンで1cmブリーツをひと折りひと折り手付けしたという思い出のワンピース(左から2人目)



教育専攻科の卒業式では、黒を着用する決まりだったとか。式では自ら制作したスーツ(写真左)を、謝恩会では華やかなピンクのドレスを着用して出席(写真右の前列右)。文化服装学院での教員生活38年の間に送り出した卒業生は3000名以上!

すみれ会の活動

Sumire's Activities

文化祭(11月2日～4日)、すみれ会関連イベントのご案内

本年度の文化祭は、11月2日(土)～4日(月・振休)に開催されます。さらに趣向を凝らしたファッションショーをはじめ、様々なイベントや展示をお楽しみいただけることと思います。文化祭の詳細(ショーの開催時間、各種イベント、展示など)は決定次第、文化服装学院公式サイトにてご案内させていただきます。

▼すみれ会 同窓会パーティ

2019年以来、久しぶりに文化祭期間中に同窓会パーティを開催いたします。すみれ総会の後、パーティとなります。卒業生はどなたでもご参加いただけますので、みなさまお誘い合わせの上、ぜひ足をお運びください。

日時:2024年11月3日(日・祝)
12時 受付開始
12時30分～15時 パーティ
場所:文化学園J館 体育館アリーナ
事前予約:不要
会費:3000円(軽食あり)

※当日会場受付にて会費をお支払いください。
※すみれ会会員証をお持ちの方はご提示ください。
※2024年3月卒業生は、会費無料でご参加いただけます。

▼すみれサロン

会員のみなさまが休憩所としてご利用できる「すみれサロン」を11月2日(土)～4日(月・振休)の10時～17時半(4日は16時まで)で閉室しております。飲み物とお菓子をご用意しておりますので、ぜひお立ち寄りください。ただし、すみれ会 同窓会パーティ開催中(11月3日12時30分～15時)は閉室となります。

▼文化祭ファッションショー

C館エントランス受付にて、すみれ会会員証のご提示で観覧チケットをお渡しいたします。この観覧チケットは枚数に限りがあるため、配布終了となる場合もございますことをご了承ください。

寄付のお願い

すみれ会は会費のみで運営しています。円滑な運営と将来のファッション界を担う準会員の支援のため、会員のみなさまにはすみれ会の活動をご理解いただき、寄付をお願いいたしたく存じます。

■寄付金の募集要項

[寄付金の使途]

学業優秀で今後の活躍が期待される在校生へ、授業料の一部を給付

[寄付金対象者]

すみれ会員、法人・企業

[寄付金の額]

1口1000円より
なお、金額の多寡にかかわらず、ありがたく承ります。※控除対象外

[募金期間]

募金期間は定めておりません。継続的に募金活動を行っております。

[申込み方法]

郵便振替にてお振込みください。

- 振込先: ゆうちょ銀行振替口座
- 口座記号番号: 00150-7-766997
- 口座名称(漢字): すみれ会寄付金口
- 口座名称(カナ): スミレカイキフキングチ

※ゆうちょ銀行以外から振り込まれる場合は下記となります。

- ゆうちょ銀行019(ゼロイチキュー)支店
- 当座預金 口座番号0766997

すみれ会ウェブサイト

文化服装学院公式サイト

[お問合せ先]

文化服装学院すみれ会
TEL:03-3299-2073
<https://sumirekai.bunka-fc.jp>



すみれ会奨学金



「文化服装学院 すみれ会奨学金」制度は、将来のファッション業界で活躍が期待される準会員の支援を目的とし、2016年度より施行しております。会員の皆さまからのご寄付も一部活用させていただいている同制度。2024年度においても成績優秀な在学生3名

が選拔され、日々の学業に生かされていることをご報告いたします。

また、4月6日(土)の入学式で、壇上において受給者への授与式を執り行いました。その晴れやかな姿は、新入生の目にもしっかりと焼きついたはずですよ。

[2024年度すみれ会奨学金受給者]

ファッション工科専門課程
ファッション高度専門士科4年
高林 華珠さん

ファッション流通専門課程
ファッション流通専攻科
宗 ひなたさん

ファッション流通専門課程
ファッション流通専攻科
岩崎 琴菜さん

「すみれ会 海外留学サポート奨学金」制度のご案内

創立100周年を契機とし、グローバルに活躍する意志を持った学生を対象に、卒業後のフィールドを海外へと広げる第一歩を支援する「海外留学サポート奨学金」制度を設立しました。2022年度より運営を開始し、2023年度の奨学生まで2名が選出されています。第1回(2022年)奨学生である大槻 嘉己さんは、すでにイギリスに。第2回(2023年)奨学生の藤井 安寿星さんも留学に向けて準備を進めているとのことですよ。

同制度へは卒業生も応募可能です。例年6月をめどとして、すみれ会ウェブサイトにて応募要項を公開していますので、海外留学を検討中の方はぜひご覧ください。

第1回(2022年)奨学生 大槻 嘉己さん
(2022年度 服飾専攻科オートクチュール専攻卒業)
第2回(2023年)奨学生 藤井 安寿星さん
(2023年度 ファッション高度専門士科卒業)



message from London

大槻さんがイギリスに旅立ちました!

服飾研究科を経て、服飾専攻科オートクチュール専攻を卒業した大槻嘉己さんが、「海外留学サポート奨学金」制度の第1回奨学生に選出されたことは、昨年の会報誌にてご報告したとおり。その後、無事に第一希望のイギリス・ロンドンにあるキングストン大学(Pre-master course: Graduate Diploma in Creative practice)に合格したとの一報を受けたのは2023年11月のこと。そして2024年9月16日より、同大学でファッションを学び始めました。

「このコースは大学院進学への準備をしながら、制作やデザインにおけるスキルを向上させるためのカリキュラムが組まれています。近年、ファッション学部が高く評価されていることに加え、キングストンの街の美し



学院長賞を受賞した卒業制作作品

さやロンドン中心部へのアクセスのよさも進学先として選択した理由です。

最初に海外留学を意識し出したのは、尊敬する師匠から、『広い世界を見て、よいものを知りたい』というアドバイスがきっかけです。そんなタイミングで設立された、『海外留学サポート奨学金』制度初の奨学生に選出いただいたこと、大変光栄に思っております。奨学生としての自覚を持ち、有意義な留学生活を送れるよう努力の上、会員のみなさまにより報告ができる日を目指して精いっぱい頑張ります!

将来、コスチュームデザイナーとして、またアートフラワーアーティストとしても活動していきたいと語る大槻さんのさらなる飛躍を、見守っていただけたらと思います。



オートクチュール専攻でのグループ制作発表会時に、チーム全員で記念撮影



ロンドン市内(左)と大学寮の前にあるテムズ川(右)。これからのロンドンでの充実した日々を予感させる



大学が始まる前に訪れた世界遺産モン・サンミッシェルの前で

ファミリーでBUNKA生!

DNA of BUNKA

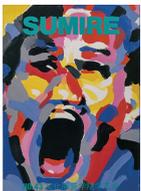
2世代、3世代にわたって文化服装学院で学んだというご家族がいらっしゃいます。時代背景は異なれど、ファッションが身近にある環境で育ち、同じ業界で働く親子、またご兄弟。今回は4組のご家族に、文化服装学院で学ぶことになったきっかけや学生時代について伺いました。



前列左から樹一郎さんと妻の章代さん、後列左から樹李さん、莉奈さんの家族写真



樹一郎さんの父・博樹さんは、1957年、文化服装学院で初めて男子学生として師範科に入学した1期生。左写真の手前が博樹さん、右は当時の遠藤学院長と懇談する男子学生1期生



文化祭のショー委員長を務めていた在学中の樹一郎さん(オレンジのジャケット着用)。この経験は、社会人になってからも地域でのイベント開催などに生かされたのだとか。写真は「sumire」43号(1993年3月1日発行)より

アパレル産業に携わってきた家族の思いを胸に "文化服装学院"でつなぐ川崎家の意志

川崎 樹一郎(小松マテレー商品開発推進部付 課長)

川崎 樹李(オーマイグラスショップスタッフ兼インフルエンサー)

川崎 莉奈(文化服装学院ショップスタイリストコース在学中)

高校、大学と繊維工学を学び、文化服装学院テキスタイルデザイン科^{*1}に進学。文化祭のショー委員長も務めた川崎樹一郎さんは、ご両親の博樹さんとまさみさん、二人の娘・樹李さんと莉奈さんもBUNKA生という、まさに今回の企画を代表するようなご一家です。「両親ともに学院卒だと知っていましたが、入学後に父(博樹)が男子学生第1期生だったとわかり驚きました。小池千枝先生も父のことを覚えており、当時のお話を直接伺ったことも。テーラーを営んでいた祖父とアパレル産業に従事していた父の影響もあり、自然とこの道歩んでいました」(樹一郎さん)

繊維会社でスポーツ分野の機能素材や織物開発を経て、現在は石川県能美市に拠点を置く小松マテレーで未来に目を向けたテキスタイル開発に注力する樹一郎さん。では、樹李さんと莉奈さんが文化へ進んだきっかけとは?

「小学生の頃、妹と一緒に父が携わった文化祭のDVDを見て、ファッションショーのキラキラした世界に衝撃を受けました。その頃から雑誌も大好きでモデルに憧れていたこともあり、ファッション流通科からファッションモデルコースを経てファッション流通専攻科へ。3年次には憧れだったショーに関わ

るためファッションフェスティバルの企画に参加し、シーン長を務めました」(樹李さん)

勤務先のオーマイグラスでは、ショップスタッフ兼インフルエンサーとして活動中の樹李さん。学生時代から文化服装学院のタグをつけSNSで自身のスタイルを発信しており、ファンも多いのだとか。そのうちの一人が妹の莉奈さんです。

「姉の影響もありますが、父が手がけたショーを見た時から文化に入ることは決めていました! 昔から人と関わって話をすることも好きですし、飲食店でアルバイトもしているため、接客スキルが学べるショップスタイリストコースを選択。家族にはまだ話したことはなかったけれど、将来はお店を持って、グッズ制作なども手がけていきたいという夢も持っています」(莉奈さん)

「両親、私、そして娘二人までが文化服装学院に行ったのは、川崎家の血筋なのかもしれません。家業のことが心のどこかにあったのか、誰に言われるでもなく、自分が見つないでいかなければと。娘たちがどう感じているかはわかりませんが、少なくとも、代々受け継がれてきた家族の意志が、影響しているのかなと思います」(樹一郎さん)

*1 現ファッションテキスタイル科



記念すべき「すみれ会報」創刊号(1979年3月16日発行)には、支部運営専門委員として博樹さんの名前も



幼い頃から人形の服づくりが趣味だった、樹一郎さんの母・まさみさん。リビング科に入学し、学生時代は演劇部にも所属



2年次の卒業制作で学院長賞も受賞した樹李さん。2022年ファッションフェスティバルではショーの企画パートを担当



姉の樹李さんと入れ違いで文化服装学院に入学し、現在在学中の莉奈さん。将来の夢に向けて日々邁進中

小松マテレー株式会社 HP <https://www.komatsumatere.co.jp>
Instagram @komatsumatere
株式会社オーマイグラス HP <https://www.ohmyglasses.co.jp>



写真中央で花束を抱えるのが、創業者の江上キヌ子さん。江上家は世代を超えてエガミイズムを継承している。右下の写真はおそろいのサロペットを着てキヌ子さんとポーズを取る尚美さんと仁美さん。尚、江上仁美さんは、株式会社エガミを経て、現在はフレグランス系の会社を運営



開店当時の「モードエガミ」。「上野駅を夜10時頃発車し、横手駅に翌朝6時頃に到着する夜行列車で仕入れに。駅で待つ夫の車で商品を運び、夢中で店頭に並べました」(キヌ子さん)



ヨーロッパの街並みを思わせるショップデザインが素敵。店内の広場ではおすすめブランドのポップアップも開催



今見てもオシャレ！学生時代の友人たちと80年代ファッションに身を包んだ仁美さん(前列左)と尚美さん(前列右)

東北のファッションハブとして エガミイズムを継承する江上家

江上 キヌ子(エガミ創業者)

江上 尚美(エガミ専務取締役/メインバイヤー)

江上 仁美

守屋 あかり(エガミバイヤー/エリアマネージャー)

「連鎖校の土屋文化服装学院で学んだ経験から、結婚後も家事や子育てをしながら、ファッションを仕事にできないだろうかいつも考えていました。双子の娘・仁美と尚美が2歳の頃に一念発起。横手駅近くに『モードエガミ』をオープンさせたのが1966年のことです」(キヌ子さん)

秋田県横手市を中心に東北地方で7店舗のセレクトショップを展開するエガミの創業者、江上キヌ子さんは、創業当時をそう振り返ります。「好きでなければ仕事ではない、楽しくなければ人生ではない」をモットーに時代を駆け抜けたキヌ子さんの意思を継ぎ、娘の仁美さん、尚美さん、そして孫の守屋あかりさんも、文化服装学院への道を選択しました。

『「将来は二人でエガミを継ぐんだよ」と常々母に言われていたので、母の大推薦で文化服装学院に進学。姉・仁美はファッションビジネス科^{*1}を、私はスタイリスト科^{*2}を選択し、それぞれコンテストやフィッターといった文化ならではの経験を通して、ファッション界で目標となる志のある方々に出会ったことが、今でも心に残っています」(尚美さん)

現在は、専務兼メインバイヤーという立場で会社を切り盛りする尚美さん。あかりさん

もバイヤー兼エリアマネージャーとして、エガミの発展に寄与しています。

「私も祖母の大推薦でファッションビジネス科^{*3}に入りました。文化祭でセレクトショップを運営するゼミに副ゼミ長として参加し、仕入れ・販促・販売の各部門の進捗を確認。問題が起これば解決を図るなど、学生ながらにお店を運営する一連の流れを経験できたことが、今に活かされています」(あかりさん)

バイキングの傍ら積極的に店頭にも立ち、コロナ禍を境に定期的開催しているインスタライブでは、自らモデルとしてお客さまとコミュニケーションを重ねる尚美さんとあかりさん。また、あかりさんの弟夫妻(江上領さんと愛海さん)が中心となって運営するオーダースーツやオリジナルブランドの展開、地元貢献を目的としたポップアップやマルシェを開催するなど、家族一丸となり東北のファッションハブとしての役割を果たしています。

「若い世代には、培ってきたエガミイズムを守りながらも、新しいエガミを築いてもらいたいです。『好きこそ物の上手なれ』と言いますが、心から楽しんで仕事に取り組んでくれることを願っています」(キヌ子さん)



あかりさんが参加していたゼミの準備風景。今も昔も学生時代にプロの世界を体験できるカリキュラムが充実している

*1 現ファッション流通科2年 リテールプランニングコース

*2 現ファッション流通科2年 スタイリストコース

*3 現ファッション流通科2年 リテールプランニングコース



それぞれがブランドのデザイナーを務める竹口家。左から有里さん、月さん、正和さん

家族でもあり、ライバルでもある クリエイター集団の竹口家

竹口 正和 (ENHANCEチーフクリエイティブデザイナー)

竹口 有里 (maturitaデザイナー)

竹口 月 (ALTAMAREAデザイナー、ディレクター)



この縮寸ボディは、月さんが4歳のとき、アパレルデザイン科の卒業制作ショーにモデル出演した際、お礼として小杉早苗先生から贈られたもの



開放的で洗練されたアトリエは、家族が集う場所としての側面も

竹口家は父・正和さん、母・有里さん、娘・月さんの3人ともにアパレルデザイン科を卒業した、デザインを生業にするクリエイター一家です。

「僕と有里はアパレルデザイン科の同級生で、一緒に作品制作をする仲でした。2年生の頃から有名な先輩に憧れコンテストに熱中していたので、単位もギリギリになりまじめな学生とはいえなかったと思います。ですが、3年次の担任だった小杉早苗先生は、制作過程ではなく作品の出来を見て判断し、率直に褒めてくれました。厳しい一面もありましたが、しっかり学生を見るところや服づくりの考え方に影響を受けました」(正和さん)

「彼の作品づくりを手伝ううちに、私自身も装苑賞などコンテストに挑戦することに。当時は山のように出る課題と作品づくりを徹夜でこなしていたので、心身ともに鍛えられました(笑)。それにこうじゃなきゃダメという縛りがなく、学生の個性を生かして授業を進める小杉先生の自由さが、小さい頃から型にはめられるのが苦手だった私に合っていたと思います」(有里さん)

卒業して数年後には「EARTH OF MOTHER (アースオブマザー)」を立ち上げ、コレクショ

ンを発表していたご両親の下で育ち、自らも「ALTAMAREA(アルタマレア)」を始動しクリエイターとしての道を歩み始めたばかりの月さん。同じ科を卒業していても、習得したスキルは時代に合わせ変化しているようです。

「幼少期から両親のデザインしたものに触れて育ち、モデル活動もしていたので、将来は自然と服にたどり着くだろうと思っていました。文化での学びや販売職の経験から、自分でつくって、着て、売ることができることが私の強みです。両親のようにデザインやパターンが得意というよりは、私たちはコンセプトの昇華が上手い世代。コンセプト重視のものづくりを大切にしていた安井涼子先生の教えが根底にあります」(月さん)

自宅をアトリエにコレクション制作をしている月さん。現場ではデザイナーの先輩でもある両親の意見が飛び交うことも。「たまにスルーしてしまうときもありますが(笑)、困ったときに助けてもらえる環境があるからこそ、何もわからないなかでブランドを立ち上げることができました。知識や技術を惜しまず提供してくれる両親に感謝しています」(月さん)



懸命にコンテストに打ち込み切磋琢磨していた、学生時代の正和さん(上)と有里さん(下)



正和さんが手がけるENHANCE(エンハンス)は唯一無二を身にまとい、パーソナルプロデュースを手助けするためのオートクチュールブランド



有里さんがデザインを手がけるmaturita(マチュリタ)はいつも楽しむ心を持つ、アクティブな女性のクローゼットをイメージ。モデルは月さん



月さんが同級生・小林明日海さんと立ち上げたブランドALTAMAREAのデビューコレクション(2024-25AW)。シンプルなデザインに独自の空気をまわしている

ENHANCE

HP <https://enhance.jp>

Instagram @enhance.jp

株式会社セシオ

HP <https://www.cecio.co.jp>

Instagram @cecio_maturita @neferbycecio

ALTAMAREA

Instagram @altamarea_official



文化服装学院でファッションを基礎から学び、学院長賞を獲得するほどの実力を身につけた隆一郎さん(左)と啓二さん(右)の横井兄弟

スポーツに打ち込んだ経験が道しるべに。 ファッションの道を歩み始めた横井兄弟

横井 隆一郎 (株式会社SMALL TRADEアトリエスタッフ / SHINYAKOZUKAデザイナーサポート・販売・PRほか)

横井 啓二郎 (株式会社THE CATER生産関連・商品管理)

2023年の兄の横井隆一郎さんに続き、弟の啓二さんも学院長賞に選ばれたという実力派の横井兄弟。ともに服飾研究科へ入学し、服飾専攻科 技術専攻を卒業しました。「大学4年までの13年間水泳に打ち込み、スポーツ関連の仕事を見視野に就職活動を始めましたが進路で迷ってしまっ。そんなとき、父がアパレル企業を経営していたこと、その影響で服が好きだったこともあり、思い切ってファッション業界へと舵を切りました」(隆一郎さん)

大学時代に採用試験や面接を受けながら、本当に自分のやりたいことを自問自答するうち、服をつくりたいという思いが芽生えたという隆一郎さん。大学卒業者が短期間で専門知識を学べる学科の存在を知り、文化服装学院への進学を決意します。「そんな兄の姿を見て、徐々に僕もファッションの世界に飛び込みたいと考えようになりました。人生のピークといえるほどにサッカーに真剣だった高校時代のように、文化でもう一度、懸命に取り組みたいと思いました」(啓二さん)

前後して1年違いで文化服装学院へと通うこととなった横井兄弟。互いに助け合いながら、濃密な2年間を過ごしたそう。「友人たちと弟の5人で1年ほど父の会社に

インターンとして通っていたのですが、業務終わりに週一で居酒屋に行き、メンバーと父とで交流を深める時間がありました。文化での2年はかなりハードでしたが、その時間があつたからこそ頑張れたと思います。その経験から卒業制作では周りの友人たちをテーマに制作。啓二にもモデルとして出してもらったコレクションが、学院長賞に選ばれました」(隆一郎さん)

「僕は1年次の時も学院長賞の候補となったのですが、結果取れなかったことが案外悔しくて。兄の卒業制作ショーに関わったことで、自身の卒業制作では真剣に学院長賞を狙ってみようと思いが湧きました」(啓二さん)

すぐにでもブランドとして通用するようなクオリティとセンスが二人の作品からもうかがえますが、現在は二人ともデザイナーズブランドに就職し、第一線の現場で実践を重ねています。

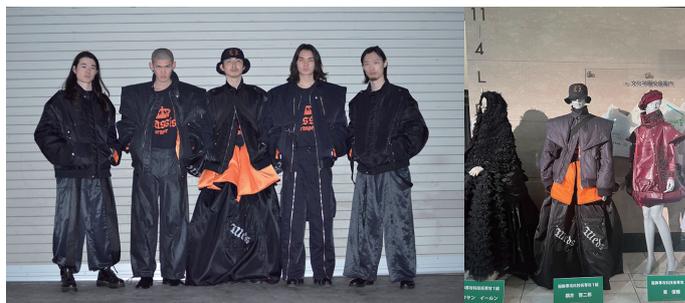
「結果というのはどれだけ時間を費やしたかに左右されると思っています。水泳でいえば100分の1秒を争う世界で、それを縮めるために途方もない努力をしてきました。傍から見れば順調に見えるかもしれませんが、アスリート気質なのでしっかりと経験や準備を積み重ねた上で、夢に挑戦したいと思っています」(隆一郎さん)



横井一家。父・横井隆志さんはOEMやODMを得意とし、複合的なクリエイティビティを実現するアパレル企業オールドワークスを経営しているが、会社のことについては兄弟の意思に委ねていたそう



隆一郎さんが動いている、シンヤコヅカの2024-25AWコレクションのひと幕



「自分が着たくない服はつくりたくなかった」と話す啓二さんは、リアルクローズ寄りのデザインの中に、1体大胆なショーピースをミックスすることで、見事に学院長賞を獲得

互いに大きな夢を持つ仲間たちとつくり上げた、隆一郎さんの卒業コレクション。いずれは学友たちとブランドを立ち上げたいと夢も語ってくれた

株式会社SMALL TRADE (SHINYAKOZUKA)
HP <https://shinyakozuka.com/>
Instagram @shinyakozuka/
株式会社THE CATER
HP <https://thecater.jp>
Instagram @thecater_inc

卒業生の活躍

Alumni Success

文化服装学院での学び、経験を生かして、ファッション業界で頭角を現し始めている卒業生のニュースが舞い込んでいます。特に若い世代の方々の活躍は目を見張るものがあります。今回は6組7名の卒業生に学生時代のこと、現在のお仕事について、お話を伺いました。

Antler

辰口 寛太 福永 竜源

HP <https://antler.theshop.jp/>

Instagram @antler_koenji



服好きの辰口さん(左)と福永さん(右)は、普段のスタイルもクール。買い付けたアイテムも難なく着こなす

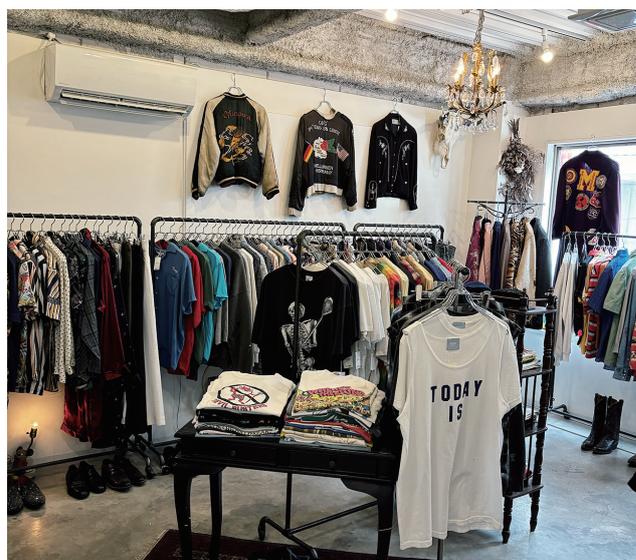
"好き"が似ているからこそ 同じ方向を目指して歩んでいける

ファッション流通科1年次に同じクラスになった辰口寛太さんと福永竜源さん。2019年に二人でオープンしたビンテージクローゼットストア「Antler(アントラー)」は、独自のセレクトや衣装提供を通じ、顧客やアーティストたちから厚い信頼を獲得しています。

「互いにファッションが好きで、いいと思うものが似ていた僕らは、学校が終わればショップに行ったり遊んだりつるんでいました。いつか店を持とうと話し合った記憶はないですが、共にリテールプランニングコース卒業を前に二人で一緒にやろうと決め、3月には物件を探し始め、4月には店を契約。当時はなんとかなるというか、とりあえずやってみてから考えようという精神でした」(辰口さん)

「それぞれが持っているものをどう生かすのか、それが二人でやっていく上で大切なことだと思います。"好き"は一緒だけれど、二人のちょっとした違いで幅を広げながら進むことで、それが店のスタイルにもなっていきます。ロサンゼルスでの買い付けではいろいろな人の自宅や倉庫を見せていただくのですが、朝から晩まで昼食も取らず2週間ぶっ通しで探し続けても、なかなか欲しいものに出会えないことも! 古着との出会いは巡り合わせですね」(福永さん)

「そうやって膨大な古着すべてに目を通しながら選んでいるからこそ、一着一着に推しのポイントが明確にあるのもアントラーの強みです。デザイナーズブランドも好きなので、そのニュアンスを持ったものや、これあの服の元ネタだよなといった服



古着だけでなく、日本のブランドもセレクト。充実のアイテムは、菅田将暉さんやKing Gnuといったアーティストへ衣装提供するほど感度が高い

好きならではの視点で、かっこいいもの、面白いものをしっかりセレクトしています」(辰口さん)

年に2、3度のバイイングはもちろん、経営や内装デザイン、オンラインショップの運営など、すべてを二人で行なっています。そこまで気が合う彼らの出会いの場となった文化服装学院は、どのような場所だったのでしょうか。

「こうして店を一緒にやる友達に出会えた場所。そう言えば、それだけ?って思われてしまうかもしれないけれど、それこそが財産になっていると思います」(辰口さん)

「それに、文化卒っていう肩書はやっぱり強いですよ。初めましてでも文化卒と聞けば親しみも湧くし、顧客の中にもたくさんの卒業生がいます。文化服装学院という共通項で盛り上がり交流できるのは、この学校ならではのかなと思います」(福永さん)



ロサンゼルスで買い付けてきた1950年代のスーベニアジャケットは、アントラーの推しアイテムの一つ

SHOP INFO

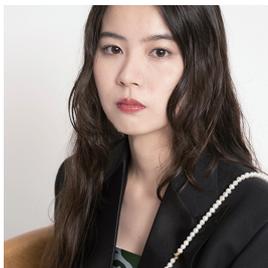
「Antler」
東京都杉並区高円寺南2-50-10
伊勢ビル2F
営業時間 13:00~20:00
tel 03-6454-6333
mail information.antler@gmail.com

ATTISESSION

四谷 奈々可

HP <https://store.united-arrows.co.jp/brand/att/>

Instagram @attisession



古着が大好きで、普段から愛用している四谷さん。新しいお店には、四谷さん自らバイイングした古着やニューブランドなども並ぶそう

クローゼットの中に一着はある、 思い出に残るような特別な一枚を

「ATTISESSION(アティセセッション)は、可憐さと自立心のある現代女性のためのワードローブがコンセプトです。BASIC、CLASSIC、ROMANTIC、COUNTER ATTITUDE (UNDERGROUND)の4つのエレメントを混ぜ合わせて、商品やスタイルを提案していますが、厳密に決め込まずにあえて要素を分散させることで、多様な女の子たちのクローゼットの中に一着はある、長く愛されるワードローブになってほしいと考えています」

2024SSコレクションより始動した、ユナイテッドアローズの次世代向けブランド「ATTISESSION」は、今の若い女の子たちが憧れを抱くような大人びた一面と、手を伸ばせば届く等身大のフレッシュさが同居する、時代の空気をファッションに落とし込んだスタイルが魅力です。

四谷奈々可さんは、ファッションモデルコースからファッションディレクター専攻^{*1}に進み、卒業と同時にユナイテッドアローズに入社。「ビューティー&ユース ユナイテッドアローズ」のショップスタッフから、兼任というスタイルでウェブ限定の商品企画に携わり、入社から3年という速さで新規ブランドのディレクターに抜擢されました。四谷さんはブランドを統括するディレクション業だけでなく、雑誌やウェブ媒体で自らを媒介に、みずみずしい感性やファッション哲学を体現されています。

「同世代でもあるターゲットのMZ世代^{*2}は、特定のはやりやブランド品を買うというよりも、様々なプラットフォームから自由にアイテムを購入し、自分のスタイルにするのが得意な世代です。自分をよく理解しているからこそその柔軟さが自由で面白いですし、そんな彼女たちが将来『20代の頃、アティセセッションを買っていたよね!』って思い返してもらえるようなブランドになれたらと思います」



アティセセッション初となる単独店舗「ATTISESSION SHINJUKU」で、ブランドの世界観と共にコレクションを楽しみたい。写真は2024AWのルック



デビューを飾った2024SSコレクション。ブランド名はAttitude(態度)とObsession(執着)からの造語。ちなみにロゴは、在学中より交流のあった文化服装学院の先輩がデザイン。プロになった今も学友とは互いに刺激し合える存在なのだから

SHOP INFO

「アティセセッション 新宿店」
東京都新宿区新宿3-38-2
ルミネ新宿 ルミネ2 2F
営業時間 11:00 ~ 21:00
tel 050-8893-3324

*1 現ファッション流通専攻科

*2 ミレニアル世代とZ世代を含む世代区分。
20代~30代前半を指す場合が多い。



印銀 優里夏

(スタイリスト)

Instagram @_yurikaingin_

Peel the AppleのMV撮影時の印銀さん(右)。「自分の中での基準値や理想がまだまだだと日々感じるばかりで、今でも好奇心旺盛に貪欲に、誠実に向上心を持ち続けたい」と語る



デザインから縫製までを担当した、ZERO PROJECTのアイドルグループ「Z2-A2 メロディアーアロウ」の衣装。小物も含めて世界観を表現できるのはスタイリストならではの



左は学生時代の作品。右は学生時代に参加した、SILENT SIREN衣装制作コラボレーションメンバーとの集合写真

コラボレーションやインターンなど 学生時代の現場経験が今につながっている

「心に残っているのは、SILENT SIRENや26時のマスカレイドとの衣装コラボレーションです。仕事としてプロの方々に関わりながら、衣装チームの友達と放課後も残り『かわいいものをつくるぞ!』と切磋琢磨したことを思い出します。さらには、インターンシップで現場に赴き、そこで得た学生ならではの貴重な経験も、今の道につながっているとします」

そう話すのは、アイドルの舞台衣装制作やMVのスタイリングなどを手がける印銀優里夏さん。テレビやライブで見たステージ衣装やキラキラした洋服の世界に魅了され、文化服装学院の進路相談へ。インターンシップで目指す業界に携われることを知り、夢に近づく一歩と入学を決めました。

「日常着よりもキラキラしたステージ衣装の世界に進みたいと思っていました。スタイリストコースでの衣装コラボレーションをはじめ、新入生歓迎ショーや文化祭などで経験したショーの裏方、カメラワークの授業で学んだ世界観を表現するための共同作業や、ハンディワークの授業で習った刺繍。それらが今の仕事にも生かされています。2023年の独立後は、クライアントからのオーダーをくみつつ、自分でもかわいいと納得のできる衣装を用意することを意識。アイドルの衣装はポップで明るい印象のデザインやスタイリングが多いのですが、今回の取材をきっかけに学生時代の作品を振り返ってみたら、当時からキラキラした世界観でつくっていました(笑)。好きなものって変わらないんだなって改めて実感しました」

海老原 円造

(テキスタイルデザイナー)

Instagram @enzoebihara

精力的に作品制作活動続ける海老原さんは、「文化服装学院でテキスタイルの面白さにどっぷりハマって抜け出せず、今も好きなことをさせてもらっているだけです」と話す



果てのないテキスタイルの世界で 社会問題に対する答えを模索

「祖父がドイツのジュエリーマイスターということもあり、文化服装学院の学校説明会でファッションジュエリー科の説明を聞いていたところ、後ろからとてつもない威圧感のあるおじさん(後の恩師、太田繁先生)に『うちも見てってよ』と声をかけられ断れませんでした(笑)。

でも、話を聞いてみたら面白い。『生地があるから服がある』『うちはゼロから100までつくることができる』といった太田先生の言葉は今でも覚えているくらい心に刺さり、その場でファッションテキスタイル科への進学を決めました」

恩師のひと言に導かれ、テキスタイルについての勉強をまさにゼロからスタートした海老原円造さん。現在はテキスタイルデザイナーとして、裂き織りという日本の伝統技術を用い、残反や残布を使用したラグを制作しています。

「在学中に見た映画『ザ・トゥルー・コスト ～ファストファッション 真の代償～』でファッション産業の裏側を見た気がしました。そして卒業後、機織り工場でのアルバイトをしているとき、毎日絶え間なく出る廃棄が目がいき、どうにかできないかと考えたことが活動のきっかけです。

裂き織りは、着られなくなった着物を雑巾に、さらにポロポロになったら裂いて織ることで、貴重品であった生地を使い切る工夫です。洋服として役目を果たせなかった生地を、もう一度洋服によみがえらせることはしかなかったため、ラグをつくり始めました。テキスタイルには無限の可能性を感じていますが、まだまだ知らないこともたくさんあるので精進あるのみです」



左は2023年にCIBONE表参道店で開催されたイベント「CopyArt Collective presents "COMFYRUG" by Enzo」にて展示・販売された作品。期間中には海老原さんが織り機を使って制作するパフォーマンスも披露。右は独特な織り模様を描き出す「変形ワッフル Type-G 2023-2024」



TULIP EN MENSEN

横山 英也

HP <https://tulipenmensen.com/>

Instagram @tulipenmensen

洋服のデザインは自身で着用したり、レディスは友人に意見をもらったりと、トライアンドエラーを繰り返して習得。雰囲気を感じ取ってから実用に落とし込むのが横山さん流



左は2024春のコレクションのルック。伝統の技法の中に心地よさを感じさせるデザインが魅力。右は新潟の特産の一つ、亀田綿を用いてつくられた和装を思わせる粋なドレス



服づくりを通してつづる

人とのつながりと地元愛

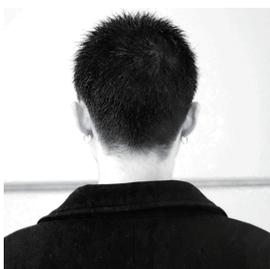
文化服装学院を卒業後、地元の新潟市に戻り、2016年にTULIP EN MENSEN(チューリップエンメンセン)を立ち上げた横山英也さん。その理由を「家族がどんな人たちなのかを理解する前に離れるのは心に引っかかると思い、一緒に生活するため新潟を拠点にしました」と話します。また「ブランドの骨子は、ブランドに関わる方々のように思います」とも。このように人との関わりを大切にしている横山さんは、「思いやり」が花言葉のチューリップ、「縁」と「and」から想起したエン、オランダ語で「人々」を意味するメンセン。それらをつなぎ合わせることで、人と人が繋がっていく様子をブランド名に込めました。

「亀田綿(新潟の野良着に使われてきた生地)や五泉ニット(五泉地区で生産されているニット)がメインアイテムです。私がブランドディレクションやデザインを手がけているとしても、関わる方々がそれぞれの持ち場で表現することで、TULIP EN MENSENを構成していると思っています。

追求しているのは、「静かなる高揚」を感じられるものづくりです。わかりやすいわけでもなく、シンプルすぎるわけでもない。着る人の心が、盆踊りのように緩やかで楽しみ続けたい、と感じられるモノであればと考えています。新潟の素材と技術を使用したアイテムを熟知し伝え続け、亀田綿や五泉のニット生産が新潟の産業として未来にも存在し続けることが、ブランドのビジョンです」



新潟の染色工場で、職人の指導のもと、手作業で染めた一点物も制作している



GEORGES ROW

井口 彦宗

Instagram @georgesrow_

学生時代には3つのコンテストに参加し、作品制作に熱中。手を動かしながら、ファッション、フード、アートと幅広くクリエイションを楽しむ井口さん。今後の展開に乞うご期待

芸術でもあり日用品でもある

着る人が美しくなれる服を目指して

「美しい男性のためのミリタリー」がコンセプトのGEORGES ROW(ジョルジュロウ)は、そぎ落としたデザインの中にユニークさがきらりと光る、品のある美しいスタイルを特徴としています。デザイナーの井口彦宗さんは、幼少期から母の料理やお菓子作りの手伝いを通じて、ものをつくる喜びを感じていたそう。

「普段から何かをつくることや想像することが楽しく、高校生の頃には衣食住に関する職につきたいと思っていました。中でもファッションは芸術であり日用品でもある面白いものだと感じ、文化服装学院に入学しました」

元来、ものづくりが大好きな井口さんはリテールプランニングコースを卒業すると服装科に入学し、技術専攻へ。服装造形や、先生から「詩のような絵だ」と褒められたデッサンの授業、コンテスト活動に熱中しました。制作過程での先生がたの指導、服づくりに夢になれた時間、その時に会った企業の方との交流などがベースとなり、卒業後すぐに活動を開始。現在はコレクションや衣装制作のほか、飲食事業や絵画制作も進行中とのことで、まさに多彩な才能を開花させようとしています。

「もともと派手な服が好きではなく、作品づくりにはかなり苦戦しましたが、その時に経験した引き算することや分散させる考え方から、シンプルな服でもこだわりを忍ばせることが出来るようになりました。まずは3~5年以内の東京コレクション参加を目標に、多くの人が美しくなれる服づくりをしていきたいです」



左はGEORGES ROWのデビューを飾った2024秋冬コレクション。多角的に男性の美学を追求し、その人の持つ美しさを引き出す服を目指している。今後はレディスの展開も視野に入れているそう。右は「Next Fashion Designer of Tokyo 2023」で東京都知事賞選、フリー部門にノミネートされた作品



文化服装学院は、ファッションショーをはじめとするイベントが多い学校だといわれています。その様子は日々公式ウェブサイトでもアップされていますが、ここでは2023年度後半から2024年度前半にかけて開催されたファッションショーやイベント、コンテストなどの一部を改めてご紹介します。

Shows, Events

文化祭Ⅰ部ファッションショー 「eR」



創立100周年(2023年)の節目となる文化祭Ⅰ部ファッションショーは、文化服装学院がさらにレベルアップして進んでいくという思いが込められ、これまで以上に学生が主人公となっていました。企画・デザイン・縫製・モデル・ヘアメイク・映像・音響・照明・舞台設営・会場・プレスのすべてを手がけることはそのままに、さらに自主性を重んじ、一つのショーをつくり上げたのです。

新たな取り組みとして、協賛企業やメディア関係者を招待してレセプションを開催することで企業と学生のマッチングを図ったり、トップファッションフォトグラファーであるレスリー・キー氏撮り下ろしによるスペシャルブックを制作・販売。またシーンの一つはそれ自体がコンテストとなり、また別のシーンは商品化を念頭においた作品が発表され、文化祭期間中に受注会も開催されました。3日間全14回の来場者は約1万2000人！来場された方々は、文化服装学院の進化を目の当たりにしたことでしょう。

eR動画



eR密着動画



文化祭Ⅱ部ファッションショー 「OPEN」



Ⅱ部ファッションショーは、有志学生によるもの。「OPEN」をテーマに企画・構成されたショーは、3つの扉からモデルがランダムに登場し、真っ白なステージを縦横無尽にウォーキングするという趣向を凝らしたものとなりました。

予想を大きく上回る観覧希望者が来場され、入場制限をかける日も出るほど。Ⅱ部ファッションショーでも多くの方に、日頃の服づくりの学びの成果をご覧いただきました。

OPEN動画



ファッションフェスティバル

例年7月下旬に開催されている「ファッションフェスティバル」は、ファッションショーをはじめ、各科カリキュラム展示やワークショップ、学生たちによるクリエイターズマーケットなどを開催し、多くの方が訪れる一大イベントです。

特に目玉となっているファッションショーは、イベントやショーの企画・プロデュースを学ぶファッション流通専攻科の学生たちが中心となり運営するもので、2024年度のテーマは「Re:xxx」。ランウェイもX形という凝りようで、ラストには次世代のニューアイコンとして注目を集める"のせりん"(写真右下)も特別ゲストで登場！ 在校生や卒業生の衣装やアクセサリー作品、オープニングやシーンごとに作成されている動画・グラフィックにもご注目ください。

Re:xxx動画 ▶



Meta×文化服装学院 産学連携企画

世界で37億人以上が利用しているFacebookやInstagramを提供しているMeta(メタ)と提携し、「Meta 次世代クリエイター支援プログラム」を開講しています。今年2月27日には、この特別プログラム開講を記念して、Instagram責任者アダム・モッセリ氏が本学を訪問。学内見学後に、ファッション流通高度専門士科の学生を対象としたトークセッションも実施されました。

同プログラムは6月から来年3月までの期間、計6回にわたって、Metaが提供するプラットフォームや最新テクノロジーの活用方法について学ぶ場を提供されるというもので、毎回さまざまなジャンルの第一線で活躍するクリエイターを招聘。学生たちは貴重な機会を得て、クリエイターとしての表現方法について研鑽を積んでいます。

装苑オンラインによる特別講義レポート ▶

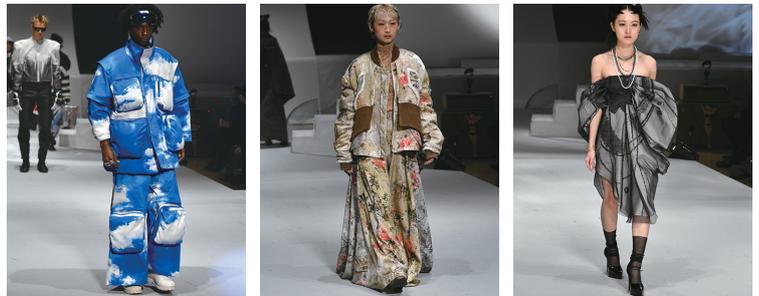


卒業制作ファッションショー

卒業制作ショーの中でも、特にメディア関係者や業界から注目度が高いファッション高度専門士科とファッション流通専攻科のショー。

ファッション高度専門士科では、4年次の1年間をかけて一人8体以上の作品を制作する集大成＝プライベートコレクション(卒業コレクション)のうち、コンセプトとクオリティが担保されている卒業コレクション(15名のみ)が選抜されるのが特徴です。またロレアルプロフェッショナルによるバックステージサポート企画「Future Talent Support PROJECT」のご協力を今回も得て、学生が自身の卒業コレクションに込めたさまざまな思いをヘアメイクの側面からも表現していただきました。

ファッション流通専攻科は、学外で開催する卒業制作ファッションショーが恒例となっています。今回はラフォーレ原宿を会場に、学生生活の集大成(END)として、個のスキルや個性を生かしながらそれぞれの役割(ROLE)を全うし、ひとつのファッションショーをつくり出すという意味が込めたテーマ「ENDROLE」の下、ショー会場の交渉からディレクション・スタイリング・演出・PR・映像・設営などすべてを学生が担い、ファッション流通専門課程で過ごした3年間を締めくくりました。



ファッション高度専門士科 2023年度卒業制作ショー動画 ▶



ENDROLE動画 ▶



Contests

夢への一步。
国内外のコンテストで相次ぐ受賞!

※学生の在籍科・学年は受賞時となります。

文化服装学院ファッションコンテスト 2023

文化服装学院公式ウェブサイト ▶



[デザイン部門]

メンズ、レディースを問わず、次世代を担うデザイナーを発掘することを目的とし、創造性、革新性、完成度を基準として審査される同部門。文化服装学院、文化ファッション大学院大学、通信教育受講生、連鎖校の在校生であり、応募者本人が実物制作可能な実力を有することが応募資格です。デザイン画による応募総数1965点のうち、1次審査を通過したのは20点。2023年12月7日(木)のショー形式による最終審査会で受賞者が決定しましたが、今回はアパレルデザイン科在校生が賞を総なめにすると

う驚きの結果に。学外のコンテストでも入賞を果たす実力者ぞろい、審査も拮抗した模様。将来が楽しみでなりません!

- A.【デザイン大賞】笠原 剛毅さん(アパレルデザイン科3年)
- B.【優秀賞】馬場 美里さん(アパレルデザイン科2年)
- C.【秀作賞】川島 茅楠さん(アパレルデザイン科3年)
- D.【佳作】桂 日向映さん(アパレルデザイン科2年)
- E.【佳作】新井 隆ノ介さん(アパレルデザイン科3年)

[技術部門トワリスト]

技術とクリエイションを競うコンテスト。課題デザイン画を基に、バックスタイルは自由に制作できるのが同部門の特徴であり、トワリストとしての腕の見せどころとなっています。2023年12月5日(火)の公開審査会にエントリーしたのは23名。デザイナーの意図するスタイルを解釈し、立体にするだけでなく、プラスαの表現がこれまで以上に多様で、審査も白熱したようです。

[服飾工芸大賞]

バッグ、シューズ、帽子、アクセサリ、テキスタイル各分野の優秀なデザイナーを発掘することを目的としており、創造性、革新性、機能性、完成度を基準として審査される部門。応募総数236点の中から、1次審査を通過した10名が2023年12月1日(金)の最終審査会に進出。審査会では制作者によるプレゼンテーションも行われ、コンセプトや具体的な制作方法などの説明を経て、各賞が決定されました。



- A.【トワリスト大賞】兒玉 志保さん(服飾専攻科 技術専攻)
- B.【佳作】坂野 瀬奈さん(服飾専攻科 オートクチュール専攻)
- C.【佳作】松村 壮也さん(アパレル技術科3年)



- A.【服飾工芸大賞】福井 河さん(ファッションテキスタイル科2年)
- B.【佳作】岡崎 えりしゃさん(ファッションテキスタイル科2年)

Next Fashion Designer of Tokyo Sustainable Fashion Design Award



Next Fashion Designer of Tokyo公式サイト ▶

東京都が主催する、2大コンテスト「ネクスト ファッション デザイナー オブ トウキョウ 2024(都内在住・在学中の学生対象)」では立澤拓都さん(ファッション高度専門士科4年、写真上)、「サステナブル ファッション デザイン アワード 2024(都内在住・在学・在勤のアマチュアデザイナー対象)」においては並木力也さん(アパレルデザイン科3年、写真下)がそれぞれグランプリを獲得しました! その他の入賞も、在校生がほぼ独占状態という快挙。文化服装学院生の実力が証明されることとなりました。

▼ネクスト ファッション デザイナー オブ トウキョウ 2024

<フリー部門>

東京都知事賞・大賞 立澤 拓都さん(ファッション高度専門士科4年)

東京都知事賞・優秀賞 千脇 倫太郎さん(アパレルデザイン科2年)

特別選抜賞 山岡 寛泳さん(II部服装科3年)

<インクルーシブデザイン部門>

東京都知事賞・優秀賞 松本 優美永さん(アパレルデザイン科3年)

▼サステナブル ファッション デザイン アワード 2024

<ウェア部門>

東京都知事賞・大賞 並木 力也さん(アパレルデザイン科3年)

東京都知事賞・優秀賞 田村 香奈さん(ファッション高度専門士科3年)

<ファッショングッズ部門>

東京都知事賞・優秀賞 山上 大成さん(バッグデザイン科2年)



Sustainable Fashion Design Award公式サイト ▶

YKKファスニングアワード



服づくりに欠かせない副資材と呼ばれるファスナーやバックル、スナップ、ボタンの可能性を探る「YKKファスニングアワード」は、学生を対象としたコンテストとしては最大規模を誇ります。今回、応募総数は66校から9518点(アパレル部門7815点、ファッショングッズ部門1703点)にも上る中、ファッショングッズ部門において、西野陽光さん(ファッショングッズ専攻科、写真左)がグランプリを獲得しました。これは、文化服装学院生が3連覇するという快挙。また、「YKK特別賞」をシュ・セイシンさん(シューズデザイン科2年、写真右)が受賞するなど、ファッション工芸課程の学生たちのクリエイションが高い評価を得ました。



YKKファスニングアワード特設サイト ▶



若手デザイナーの登竜門
「ITS」のグランプリを
佐藤 百華さんが受賞!

これまでバレンシアガで活躍するデムナ・ヴァザリアやリチャード・クイン、セシリー・バンセン、日本からも中里唯馬をはじめとする数多くのクリエイターが参加し、若手デザイナー発掘の場とされる「イツ(ITS=International Talent Support)」。2023/24年版のファッション部門グランプリを、佐藤百華さんが受賞しました。

佐藤さんは、2017年にファッション高度専門士科を卒業し、企業デザイナーを経て、イギリスのノッティンガム芸術大学に留学。現在はファッションブランド「ユークロニア」を立ち上げ、東京を拠点にデザイナーとして活動中。受賞を機に、さらなる飛躍が期待されています!



装苑ONLINE



ユークロニア
Instagram



インフォメーション

Information

会計報告

2023年度はすみれ会総会が中止となりました。そのため会計報告は監査委員による監査を経て役員に報告がなされ、承認されました。2024年度予算案とともにここに掲載し、会員の皆さまにご報告いたします。

2023年度 収支報告

期間：2023年4月1日～2024年3月31日

収入 (円)

| 項目 | 予算 | 決算 |
|-------|------------|------------|
| 会費収入 | 12,510,000 | 12,483,000 |
| 事業収入 | 0 | 0 |
| 雑収入 | | 766 |
| 寄付金収入 | | 69,670 |
| 収入合計 | 12,510,000 | 12,553,436 |

2024年度 予算案

期間：2024年4月1日～2025年3月31日

収入 (円)

| 項目 | 予算 |
|------|------------|
| 会費収入 | 10,930,000 |
| 事業収入 | 360,000 |
| 合計 | 11,290,000 |

支出 (円)

| 項目 | 予算 | 決算 |
|------------------|------------|--------------------------|
| 会員証発行費 | 300,000 | 51,132 |
| 会報発行費 | 2,500,000 | 2,376,656 |
| 事業支出費 | 15,000,000 | 11,626,281 ^{*1} |
| 事務運営費 | 500,000 | 67,189 |
| 会議費 | 280,000 | 32,557 |
| 出張交通費 | 50,000 | 0 |
| 慶弔費 | 200,000 | 148,004 |
| 奨学金(すみれ会奨学金) | 2,100,000 | 1,402,662 |
| 奨学金(海外留学サポート奨学金) | 1,500,000 | 0 |
| 会員システム導入費 | | 858,000 |
| 報酬 | | 1,019,213 |
| 会費返金 | | 230,000 |
| 雑費 | 5,000 | 1,430 |
| 予備費 | 500,000 | 0 |
| 支出合計 | 22,935,000 | 17,813,124 |
| 前期繰越剰余金 | | 83,999,852 |
| 当期剰余金 | | -5,259,688 |
| 次期繰越金 | | 78,740,164 |

支出 (円)

| 項目 | 予算 |
|--------|------------|
| 会員証発行費 | 100,000 |
| 会報発行費 | 2,300,000 |
| 事業支出費 | 3,500,000 |
| 事務運営費 | 1,600,000 |
| 会議費 | 250,000 |
| 出張交通費 | 30,000 |
| 慶弔費 | 200,000 |
| 雑費 | 5,000 |
| 奨学金 | 1,750,000 |
| | 1,500,000 |
| 予備費 | 55,000 |
| 合計 | 11,290,000 |

*1 文化祭すみれサロン諸経費・100周年記念レセプション関連費用含む

会員手続きについて

永久会員への更新、会員証の再発行、氏名・住所等の変更手続きは、文化服装学院すみれ会ウェブサイト、または文化服装学院事務局窓口にて承ります。

文化服装学院すみれ会ウェブサイト



<https://sumirekai.bunka-fc.ac.jp>

▶永久会員/会員証再発行/氏名・住所変更の手続き方法

- ①『会員特典・手続き』→『会員手続き』申し込みフォームに必要事項をご記入ください。
- ②永久会員への切り替え、会員証再発行の場合は、お申込み時のメールアドレス宛てに、会員証発行費のお支払先をご案内いたします。
- ③会員証発行費のお支払いが確認でき次第、ご登録の住所に会員証を郵送いたします。

▶会員手続き、会員特典に関する問合せ先

文化服装学院すみれ会事務局
〒151-8522 東京都渋谷区代々木3-22-1 TEL:03-3299-2073
受付時間:9:00-17:00

すみれ会会員特典

すみれ会では、会員特典をご用意しております。ご利用にあたっては「すみれ会会員証」をご提示ください。※特典情報は随時更新しております。最新情報はホームページをご覧ください。

特典① すみれ会報、ご案内の発送

同窓会誌「すみれ会報」を年に1回、お送りいたします。

特典② 文化学園施設利用

文化学園図書館

ファッションに関する書籍、雑誌の所蔵では日本一ともいわれる文化学園図書館。稀覯本から、トレンド予測情報誌、デザイナー作品集、雑誌ほか、その数はおよそ33万冊。開館スケジュールについては、文化学園図書館ホームページ掲載の「図書館カレンダー(卒業生用)」をご確認ください。

<https://lib.bunka.ac.jp/>

TEL:03-3299-2395

文化学園服飾博物館

「衣」を通して日本と世界の文化を知る」をテーマとして、年3~4回程度の企画展を開催。世界各地から収集された貴重な衣服や染織品、デザイナーの作品などを展示する展覧会が、無料にて鑑賞いただけます。

<https://museum.bunka.ac.jp/>

TEL:03-3299-2387

文化学園ファッションリソースセンター

布地に関する実物資料と情報を提供するテキスタイル資料室、コレクション動画やアカデミー賞受賞作品をはじめとする2400本以上の映像を所蔵している映像資料室がご利用いただけます。

<https://www.bunka.ac.jp/frc/>

特典③ 文化学園事業利用の優待

文化購買事業部

GAKUEN SHOP 表生地・手芸用品コーナー・書籍コーナーの商品を店舗販売に限り、10%OFFでご購入いただけます。※一部対象外がございます。

<https://shop.bunka.ac.jp/>

TEL:03-3299-2034

文化出版局

雑誌『装苑』『ミセスのスタイルブック』の定期購読を10%OFFにてお申し込みいただけます。下記ホームページまたはお電話よりお申し込みください。

▼特別割引購読の申込み

(株)富士山マガジンサービス

<https://www.fujisan.co.jp/campaign/bunka/>

フリーダイヤル:0120-223-223

オペレーターに「クーポンコード:sumire2024」をお伝えください。

※クーポンコードの提示がないと特別割引は適用されません。

文化服装学院生涯学習

文化服装学院の充実した施設と設備を利用しながら学べる、90以上のオープンカレッジと通信教育講座。ブラッシュアップにも役立つBUNKAファッション・オープンカレッジの入会金を、半額にてお申し込みいただけます。

<https://lifelong.bunka-fc.ac.jp/>

TEL:03-3299-2233

文化軽井沢山荘

文化学園関係者のみを対象とする山荘(研修所)としてリスタートしました。晴れた日には浅間山を一望でき、軽井沢・プリンスショッピングプラザにも近い好立地で、ご利用しやすい宿泊費も魅力。有意義な時間をお過ごしください。

〒389-0113 長野県北佐久郡軽井沢町レイクニュータウン

<https://www.bunkakaruzawasansou.com/>

TEL:0267-48-1525

特典④ 協力企業によるサービス

日本旅行

日本旅行の全国支店店頭にてお申し込みされると、パッケージツアーを5%OFFにてご利用いただけます。窓口にて、すみれ会会員証をご提示ください。(Web、電話でのお申込みは対象外)

国内:赤い風船

海外:マハハ、ベスト

※他社企画、Webコレクション等、上記ブランド以外は対象外です。

※旧日本旅行OMCトラベルは除外となります。

※本人とご家族が対象です。

※その他各種割引との重複利用はできません。

会員特典にご協力いただける企業、お店を募集しています。

会員証の提示で割引が可能になる、特典をつけてくださるなど、卒業生の皆さまのご好意をお待ちしております。

問合せ先:すみれ会事務局 TEL:03-3299-2073

文 化学園服飾博物館 展覧会のお知らせ



1. 女性用衣装 アフガニスタン 1970-80年代
2. 女性用衣装 ポーランド 1982年頃
3. バッグ フランス 1910-20年代
4. 着物(部分)日本 19世紀末

「世界のビーズ」

古来より、衣服や装身具に幅広く用いられているビーズにフォーカスした展覧会が開催中です。民族のアイデンティティ、また権力や富の象徴、そして精神世界とつながるためのなくてはならない道具の一つとして、ビーズはさまざまな役割を果たしてきました。ビーズに使用される素材も、木や石、鉱物、さらにはガラスやプラスチックなど時代と共に多彩なものとなり、美の表現に限界のないことを実証してくれています。

本展では、「世界の民族とビーズ」「ファッションとビーズ」といった側面から、世界約40カ国ものビーズ作品を展示。また、ビーズ刺繍デザイナーとして絶大な人気を誇る、田川啓二さんが手掛けたオートクチュールドレスも展示されるなど、ビーズの歴史と現在の両方に触れられます。

会期：開催中～11月4日(月・振休)

開館時間：10時～16時半

(入館は閉館の30分前まで。10月25日は19時まで開館)

休館日：日曜・祝日(11月3日と4日は開館)

入館料：一般500円、大学・専門学校生・高校生300円、小・中学生200円
※すみれ会員の方は会員証のご提示により無料でご覧いただけます。

〒151-8529 東京都渋谷区代々木3-22-7

新宿文化クイントビル1階 TEL:03-3299-2387

関連イベント ギャラリートーク

学芸員による展示解説を行います。展示品へのさらなる理解を深めるよい機会となりますので、ぜひご参加ください。

開催日時：10月12日(土)13時30分～(12時30分より受付順30名)

文 化服装学院 教員採用情報



文化服装学院では、未来のファッション業界を担う人材を育成する教員を募集しています。授業や学校生活をはじめ、学生を全面的にバックアップするクラス担任制が特徴で、学生とともに歩み、喜び、成長できる職場です。

[募集概要]

常勤助手

■募集人数：若干名

■応募方法

まずはメールでお問い合わせください。折り返し詳細をご連絡いたします。

■問合せ先

文化服装学院 事務局 教務部 教務一課

TEL:03-3299-2211

メールアドレス gakuin-saiyou@bunka.ac.jp

※休校日や夏季・冬季休暇中はお問い合わせに返信できかねます。ご了承ください
※応募書類提出は郵送必着

※配属先については本学院にて決定

BUNKA 古本募金



不要になった書籍・CD・DVD・ゲームソフトを指定の古本業者に送付すると、その売却代金が文化学園への寄付金となる取り組みです。文化学園のさらなる教育・研究の充実のために、ぜひご協力をお願いいたします。詳細は右のQRコードから専用ホームページをご覧ください。



役員紹介



すみれ会会長
佐藤繊維株式会社
代表取締役

佐藤 正樹 氏



すみれ会名誉会長
文化服装学院 学院長

相原 幸子 氏



すみれ会副会長
株式会社オールファッションアート
研究所 代表取締役

松本 ルキ 氏



すみれ会副会長
株式会社ヒロコシノ
代表取締役副社長

小篠 ゆま 氏



POTESALA主宰
スタイリスト、衣装デザイナー

飯嶋 久美子 氏



すみれ会副会長
文化学園理事兼
文化服装学院 学院長補佐

門井 緑 氏



スーパーバイザー
株式会社サーヴォ
グレーダー

花里 裕 氏

SUMIRE KAI 2024 | NO 64

第64号(2024年号) 2024年10月1日発行

発行人=佐藤正樹

編集者=すみれ会広報活動専門委員会

発行所=文化服装学院すみれ会

〒151-8522 東京都渋谷区代々木3-22-1 TEL:03-3299-2073

Art Direction & Design: 中井 拓(QUEEL DESIGN)

アパレルマーチャンダイジング科卒業

6~13p 取材・文: 吉野みどり ファッション情報科卒業



SUMIRE KAI